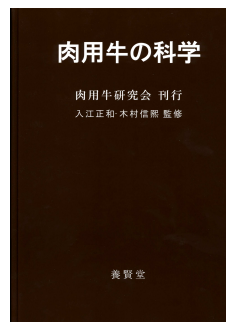


## 「肉用牛の科学」

肉用牛研究会刊行 入江正和・木村信熙 監修



「肉用牛の科学」は、肉用牛研究会が創立 50 周年を記念して、養賢堂より出版された肉用牛の専門書である。同研究会は、故・上坂章次京大教授を初代会長として、1964 年京都の地で設立された産官学の全国組織である。研究会は、古くから日本学術会議の認定団体として、毎年、研究会報を複数号刊行し、研究会大会を行うなどの活動をしており、活動内容・歴史、会員数ともに学会レベルにあるが、肉用牛生産現場と産官学の連携交流を重視して、今も研究会と称していると聞いている。

本書は、研究会会員を中心とした産官学の第一線の研究者、技術者など約 80 名もの執筆者が、肉用牛の技術、経営、社会情勢等について多くの学術情報を取りまとめたものであり、まさに肉用牛の知識と情報の集大成の書といえよう。原稿は、すべて新たに執筆されたオリジナル性の高いものであり、しかも広く普及を願って、少しでも安価にすべく、ボランティアで執筆、製作されている。編者の努力を高く評価したい。

内容は、歴代会長の寄稿に続き、次の 12 章構成となっている。

- 緒論 肉用牛技術の発達と肉用牛の科学 1. 肉用牛の基本技術の発達と普及, 2. 肉用牛研究会の発足と特色, 3. 肉用牛肥育技術の発達
- 第 1 章 わが国における肉用牛産業 1. 肉用牛の歴史, 2. 国内生産と輸入の動向, 3. 肉牛経営の特徴と動向, 4. 生産性と経営, 5. 銘柄牛, 6. 肉用牛の機能と役割
- 第 2 章 育種 1. 品種, 2. 登録, 3. 黒毛和種の育種改良と展望, 4. ゲノム育種
- 第 3 章 繁殖 1. 雌牛の繁殖生理, 2. 雄牛の繁殖生理, 3. 人工授精と胚移植, 4. 繁殖障害, 5. 最近の繁殖技術,
- 第 4 章 栄養 1. 肉牛飼料の栄養成分, 2. 消化と反芻生理, 3. 肉牛の第一胃内微生物群, 4. 日本飼養標準, 5. 育成, 肥育, 繁殖牛の栄養, 6. 栄養と肉牛の疾病
- 第 5 章 飼料 1. 濃厚飼料, 2. 粗飼料とその生産, 3. 自給飼料の生産と利用
- 第 6 章 生理と発育 1. 生体機構, 2. 発育と成長, 3. 子牛・育成牛, 4. 肥育牛, 5. 産肉生理
- 第 7 章 飼養管理 1. 繁殖管理と経営, 2. 哺育管理, 3. 肥育管理, 4. 放牧管理
- 第 8 章 飼育環境と施設 1. 飼育環境と肉用牛の行動, 2. 牛舎と施設, 3. 放牧牛の管理施設, 4. 環境保全と肉用牛, 5. 糞尿処理
- 第 9 章 牛肉の流通 1. と畜の方法と市場の施設, 2. 部分肉処理 (カットと整形), 3. 消費の動向, 4. 市場の動向, 5. 副産物
- 第 10 章 肉量・肉質の評価と制御 1. 枝肉格付, 2. 肉量・肉質の評価, 3. 肉量・肉質の生体評価, 4. 低品質肉の発生, 5. 肉質の制御
- 第 11 章 衛生 1. 衛生管理基準, 2. 疾病と衛生管理, 3. 感染症, 4. 飼料と牛肉の安全性
- 第 12 章 肉用牛生産の今後の展開 1. 先進国の肉牛産業, 2. 開発途上国における肉牛産業, 3. 各種生産認証・奨励制度, 4. 生命倫理とアニマルウェルフェア, 5. 肉用牛の国際化戦略, 6. 肉質の改良方向

おわりに

付表 (過去から現在までの飼養標準, 発育曲線, 飼養動向, 牛肉消費等)

本書は、肉用牛に関係する学界、官庁、業界の技術者、研究者はもとより、生産者や学生までも幅広い方々を対象としており、肉用牛に関する基礎～応用技術、あるいは肉用牛の過去の歴史～現状～将来展望まで広範囲な内容が含まれ、実践書としても大きな価値がある。畜産学・獣医学の科学的知見の情報として、さらに肉牛産業界の発展のため、本書が幅広く活用されることを期待したい。

(日本学術会議会員, 日本畜産学アカデミー事務局長,  
独立行政法人家畜改良センター理事長 佐藤英明)

発行: 2015 年 1 月 9 日

価格: 9,000 円 (税別)

発行: 養賢堂 〒113-0033 東京都文京区本郷 5 丁目 30 番 15 号

TEL: 03-3814-0911 FAX: 03-3812-2615